

日	月	火	水	木	金	土
1 先勝 初午 三りんぼう うま	2 友引 ひつじ	3 先負 節分 さる	4 仏滅 立春 とり	5 大安 いぬ	6 仏滅 三りんぼう る	7 先勝 北方領土の日 ね
8 友引 こと始め 針供養 一粒万倍日 うし	9 先負 とら	10 仏滅 う	11 大安 建国記念の日 紀元祭 たつ	12 赤口 み	13 先勝 二の午 一粒万倍日 うま	14 友引 ひつじ
15 先負 さる	16 仏滅 とり	17 先負 祈年祭 いぬ	18 友引 三りんぼう る	19 先負 雨水 ね	20 仏滅 一粒万倍日 うし	21 大安 とら
22 赤口 う	23 先勝 天皇陛下御誕生日 天長祭 たつ	24 友引 み	25 先負 一粒万倍日 うま	26 仏滅 ひつじ	27 大安 さる	28 赤口 とり

如月

〔きさらぎ〕 令和 8 年 2 月

一年の内で最も寒さを感じる月で、
着る物をさらに増やす月という意味
で着更着とも書きます。

発行：北海道神社庁一區教化委員会

上下各々その職分を守り
家内正しく濫りならず
一和して世をわたるが神道でござる
— 大国隆正・神道道しるべ —

今月のことば

上下各々その職分を守り
家内正しく濫りならず

一和して世をわたるが神道でござる

— 大国隆正・神道道しるべ —

神道が古来、正直・清浄の二徳を尊重し、これを説きつづけたことは正しい。但し、この二神徳だけでは足りない。それは大祓詞のうちにも「皇親神漏岐・神漏美の命もちて」とあるやうに、祖神の形容詞として、スメ（澄め・清浄・正直）とムツ（睦・親和）の徳の冠せられてゐることから見て、清浄・正直の二徳の外に、ムツ（睦まじく）の徳が併せて重んぜられなければ、神典を正しく読んだものとはいへない。大国隆正が多くの神典を深し読んだ結果、「和」（仲よくすること）の徳が、神道として大切な所以を見出したことは、流石、先見の明があつたとしてよい。

個人の生活に於ては、各々が、自分の責務をよく守り、家内にあつて夫婦子供と生活する際にも、お互に、それぞれが自分の責務を守ることが当然であるが、皆と共に行動する以上は、和睦（仲よく・睦まじく）の精神を忘れてはならない。それが神道なのだと思へられたものである

（神道百言 一般財団法人神道文化会編より抜粋）

季節のまつり

節分

二月三日
家族そろって「鬼は外」

節分は、季節が移り変わるとうきといふ意味で、立春・立夏・立秋・立冬の前日を言いましたが、特に気候が冬から春に移る時期であることから、立春の前日だけを呼ぶようになりました。そして、季節の変わり目には災いや疫病が増えるため、厄や邪気を鬼に見立てて追い払う「追儺」の行事を取り入れて、豆まきを行います。また、豆まきの年の数だけ食べるのは、年取りの行事で、新しい年を健康（まめ）に暮らせますように願いを込めて食べます。



恵方

恵方巻き
今年の恵方は「南南東」

恵方とはその年の干支によって定められた最も良いとされる方角のことです。今年の恵方は「南南東」です。その方向に歳徳神がいるといわれ、節分にその恵方に向かって巻き寿司を食べることから「恵方巻き」や「恵方寿司」と呼ばれるようになりました。恵方巻きは目を閉じて願い事を思い浮かべながら、恵方に向かって無言で一本丸ごとの海苔巻きを丸かぶりします。巻き寿司を切らずに食べるのは「縁を切らない」という意味が込められており、七福神にちなんで七種類の具材が入れられ、「福を巻き込む」という願いも込められています。

二十四節気

【立春りつしゅん】… 四日

太陽黄経三百十五度のときにあたり正節で、節分の翌日になります。暦の上ではこの日から春ですが、まだ寒さは厳しい候です。

【雨水うすい】… 十九日

このころ雨水めるみ、草木が発芽しはじめます。

六曜・選日

【六曜】… 諸事急ぐことによし、午後よりわるし
【先勝】… 諸事急ぐことによし、午後よりわるし
【友引】… 朝夕よし、正午わるし、葬式を忌む
【先負】… 諸事静かなることによし、午後大吉
【仏滅】… 万事凶、患えは長びくおそれあり
【大安】… 何事をするのにも吉の日、大吉日
【赤口】… 諸事油断すべからず、正午のみ吉
《選日の吉凶》
【三りんぼう】… 三隣亡日、普請始め、棟上大凶日
【一粒万倍日】… 出資・投資・購入、新規事業開始、婚姻は吉、借りる、離別凶

七十二候《2月》

雨水

初候… 土脈潤起（つちのしめつつあひおこる）
土が雨で湿り気を帯びる
次候… 蟄始鍵（かすみはじめてたなびく）
霧がたなびき始める
末候… 草木萌動（そうもくもぎん）
草木が芽吹き始める

立春

初候… 東風解凍（はるかぜこおりをとく）
春の風が氷を解かす
次候… 黄鶯見聞（こうおうけんかん）
ウグイスが鳴き始める
末候… 魚氷上（うおこおりにのぼる）
割れた氷から魚が飛び出す

安産祈願 2月の戌の日

5日（木）
17日（火）

※戌の日以外でも安産祈願のご奉仕をしております。神社にお問い合わせください。

《11日 建国記念の日》

建国をしのび、国を愛する心を養う日です。

《23日 天皇陛下御誕生日》

天皇陛下の御誕生日を祝う日です。

祝祭日には国旗を掲げましょう

令和8年の厄年

男性

女性

生年 生年

25歳 平成14年生 19歳 平成20年生

42歳 昭和60年生 33歳 平成6年生

37歳 平成2年生

運暦

男女 61歳 昭和41年生

※各年齢の前後が前厄後厄となります。

※厄年には地域や神社により習慣の違いがあります。詳しくは御社頭にてご確認ください。

「厄年」とは何歳ですか？

厄年は男性が二十五歳・四十一歳・六十一歳で、女性が十九歳・三十三歳・三十七歳の年回りを言います。その前後の年齢を「前厄」「後厄」と言います。中でも、男性の四十二歳は「死に」、女性の三十三歳は「散々」に通ずるという語呂合わせから「大厄」と言われて、特に意識されることが多いようです。神社では、正月から二月の節分にかけて「厄祓」のご祈禱を受ける人が多く見られます。厄年は近年、医学的に解明しようとする試みもなされていますが、ホルモンの分泌量の変化や、免疫力低下などにより体調不良を起こすことがデータ的にも多いようで、神社での厄祓の際に授与された神札を神棚におまつりし、お守りを身近に持ち歩くなど、普段より健康に留意し、生活することが大切でしょう。

せっちゅうそうたん 雪中送炭

人が最も困っている
ときに援助の手を差し伸べる



勿忘草（わすれなぐさ）

針供養 なぜ二月八日なのか？

二月八日には、日ごろ使っている針を供養する行事があります。これは江戸時代から始まった行事で、この日は針仕事を休んで、折れたり曲がったりして使えなくなった針を、こんにやくや豆腐、餅などに刺して、川に流したり、神社やお寺に持ち寄りました。

そして、日常生活に欠かせない針に感謝をささげるとともに、針仕事の上達と安全を祈ったのです。

この針供養は、地域によっては二月八日と十二月八日の年二回行いますが、この二日は、こと始めとこと納めという厄日に当たるために、針仕事を休んで針の供養をするようになったという事です。

最近ではこの行事はあまり見られなくなりりましたが、和裁を教える学校などでは、現在でも針供養を行っています。

参考文献
『日本人のしきたり』飯倉晴武（青春出版社）